

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	平成30年度第2回桜区区民会議
2 会議の開催日時	平成30年7月25日(水) 10時00分～11時30分
3 会議の開催場所	桜区役所4階 大会議室
4 出席者名	<p>【委員】 飯塚委員、五十嵐委員、岩田委員、大江委員、小川委員、小澤委員、川上委員、河野委員、島崎委員、長沢委員、原委員、福島委員、古屋委員</p> <p>【事務局】 コミュニティ課清宮課長、青木課長補佐、根岸主任</p> <p>【運営支援】 山口、石川、川村 (エコまちづくりフォーラム(株))</p>
5 欠席者名	市村委員、榎本委員、岡島委員、小山委員、高澤委員、千葉委員、渡辺委員
6 議題及び公開又は非公開の別	<p>(議題)</p> <p>(1) テーマの協議・意見交換</p> <p>(2) その他</p> <p>(公開又は非公開の別)</p> <p>公開</p>
7 非公開の理由	
8 傍聴者の数	0人
9 審議した内容	議題について、協議を行った。
10 問合せ先	桜区役所 区民生活部 コミュニティ課 電話番号 048-856-6130
11 その他	

平成30年度 第2回桜区区民会議

日時 平成30年 7月25日(水)

午前10時～

会場 桜区役所 4階大会議室

次 第

1. 開 会
2. 議 事
 - (1) テーマの協議・意見交換
 - (2) その他
3. その他
4. 閉 会

1. 本日の会議の概要

進め方は委員のみなさんで決めていきます

第1回 H30/05/29
テーマの協議

第2回 H30/07/25
テーマの協議

第3回 H30/08/29
テーマの協議

第4回 H30/10/25
テーマの協議

第5回 H30/12/21
協議報告書の
とりまとめ

第6回 H31/02/22
区長との
意見交換会

交流会 H31/03/20
市民活動ネット
ワークとの交流会

■ 前回 [第1回]

・ 昨年度の活動経緯と今年度の進め方
について確認しました。



- ・ 平成30年度の協議テーマを
「みんなで助け合い、見守る、優しさ
と楽しさのある桜区のまちづくり」に
決定しました。
- ・ 「子育て支援」について、協議を行いま
した。
- ・ 最後に協議内容の確認を行いました。



会議の結果を受けて、三役で次回会議
の進め方などを検討しました。

■ 今回 [第2回]

・ 前回協議した「子育て支援」につい
て確認します。



- ・ 「高齢者支援」について、協議を行
います。
- ・ 「課題の確認」～「解決策などの検
討」を、今回も1回で行います。
- ・ 最後に協議内容の確認を行います。



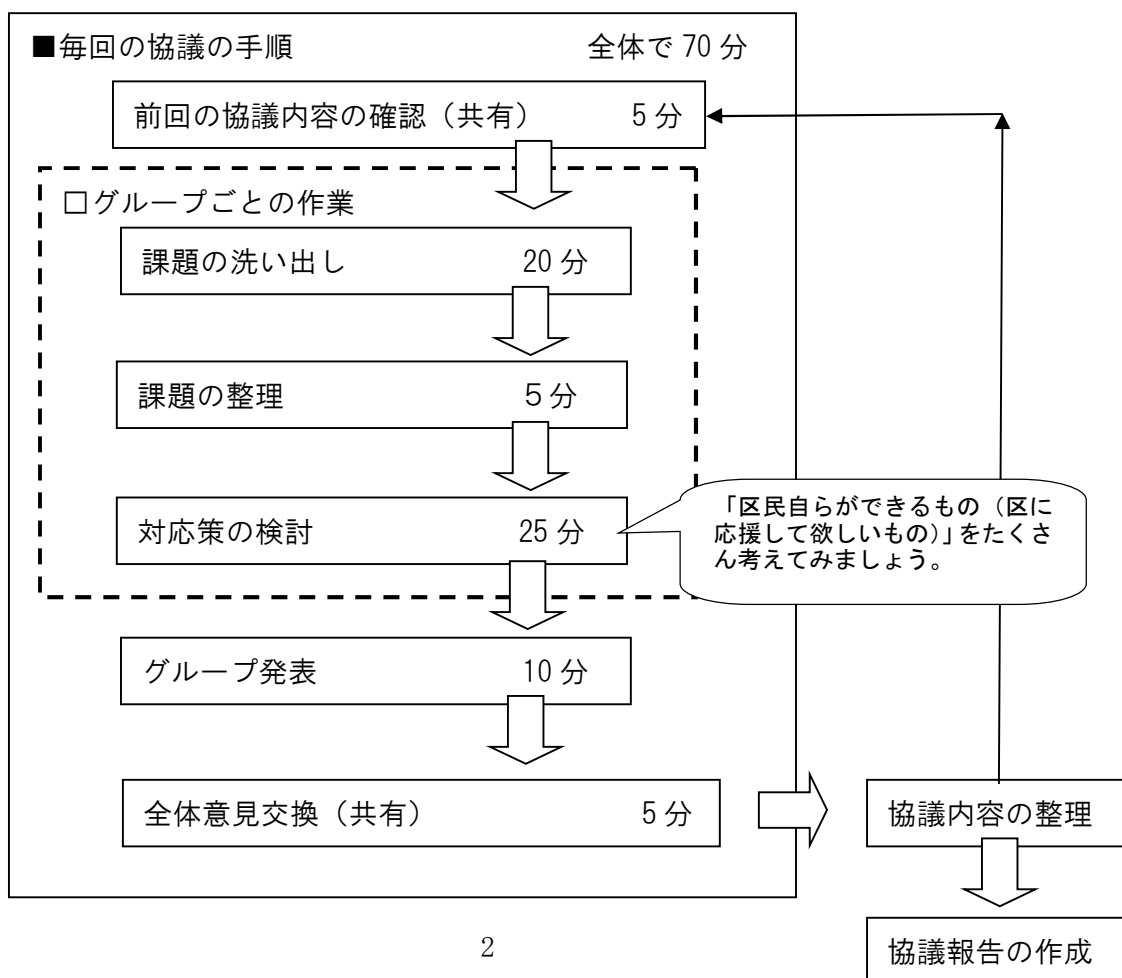
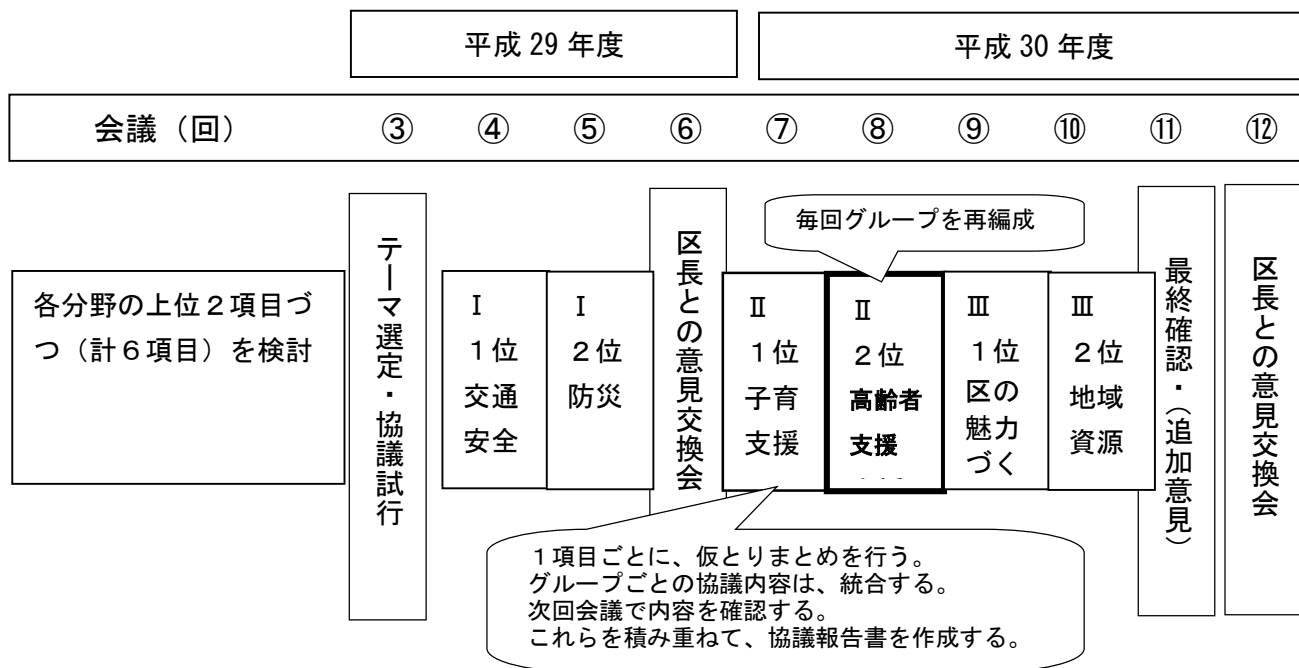
次回は、「桜区の魅力づくり」につい
て協議する予定です。



2. 協議の進め方について

(1) 協議のスケジュール

- ・ 1回の会議に1つの項目を協議します。
- ・ 2グループに分かれ、同じテーマを並行して取り扱います。
- ・ 毎回、グループメンバーの再編成を行います。



3. 前回の協議について

子育て支援

(1) 学童保育や子育て支援

いま気になるところは、

- 市の学童保育施設でアルバイトをしているが、正職員は事務で忙しく、アルバイトが多くの実務を担当している。子ども60名を5~7名のスタッフが世話をしている。職員スタッフや予算も不足しており、民間に委託するのは難しいと感じる。
- 保護者が都内へ通勤していることや残業のため、子どものお迎えが保育終了時間を過ぎるケースが多く、それまでスタッフが待機せざるを得ないため、負担が大きい。
- 施設側は、不要な玩具の寄付を望んでいる。
- 学童保育等の施設では、子どもが親に出せない本音と言えるようだ。
- 待機児童問題については、母親間のネットワークで、空き情報の共有などをよくやっていると感じている。自分の場合は、保育園の入所は1年前から予約していた。
- 2歳の子どもを育児中だが、親子でショッピングモールなどに行き、友人と遊んでいる。外であまり遊びたがらない1~2歳児の子どももみかける。
- 公園に子どもを連れて行くと、水が溜まっている池などが危険。

① 育児世代が親子で気軽に集まれる場所をつくろう

【解決策やアイデア】

- すべての世代が集える、飲食も可能な図書館が、自宅から自転車で行ける距離にあると、交流の場にもなってよい。
- 親子で遊びながらコミュニケーションがとれるサークル（仲間保育）の機会をより増やしたい。

【委員の意見】

- 他県事例では、すべての世代が集い交流できて、飲食も可能な図書館があるようだ。
- 社会福祉協議会では、親子で遊びながらコミュニケーションをとるサークル（仲間保育）などを行っている。もっと数多くの機会ができればよい。
- 子ども達が、遊ぶ、学ぶ、食べることに於いて、安全に楽しく生活できる環境であって欲しい。防災がしっかりしていること。駆け込める病院があることが安心につながる。
- 実際に、今の親は何を望んでいるのかなど、現役の子育て世代の悩みをもっと聞いて手を差し伸べられるように支援策を考えられるといい。
- 外に出て行けない親の心をほぐして、支援してあげたい。

(2) 地域の子どもへの見守り

いま気になるところは、

- ・元気で時間もある高齢者が可能な支援を考えたいが、ケガや事故があったときの「責任問題」が必ず課題となる。
- ・「子どもを預ける場所があればいい」という親も多く、土曜チャレンジスクールなどが託児所として利用されている面もある。
- ・地域によって小学校の規模に差があって、いろいろな課題があるが、学区の調整は難しいと聞く。
- ・登校時の見守りに比べ、下校時の見守りボランティアがいないのが悩みである。
- ・子ども会を運営する親が減少し、子どもも習い事で忙しくなってしまう、子ども会が無くなってしまったところもある。

① こどもが、家族以外のおとなと触れ合い、成長する機会をつくろう

【解決策やアイデア】

- 地域の子育て世代の交流の場や活動などを探している人のために、「子育て交流マップ」があるといい。
- 親以外のおとなとのふれあいも得られる子ども会、スポーツ少年団などの活動をもう一度見直す。
- 下校時も見守りボランティアを確保する。
- ファミリーで参加できるバーベキュー大会などを企画し、交流の輪を広げていく。

【委員の意見】

- ・子ども会の減少で親同士の交流が少なくなり、どこでどんな交流があるのかわかる「交流マップ」があると役に立つのではないか。
- ・スポーツ少年団も、学童保育の役割を担っている。他人から、叱られる、褒められることは大切。他の学校の生徒との交流もできる。
- ・ゴミゼロ運動では、子ども達にお菓子を配って参加を促している。
- ・夕方5時からの防犯パトロールに、5歳以上の子どもも一緒に回っている。子どもは親の手伝いをするのが楽しみようだ。
- ・ファミリーで参加できるバーベキュー大会やバザーなど、参加しやすく楽しめる。秋ヶ瀬公園のバーベキュー場は、安く利用でき、人気があり盛況だ。
- ・子どもとは、体をつかったコミュニケーション（スキンシップ）が大事。「いい子、いい子」と頭をなでる、手をつなぐ、抱きしめる、声をかける、など。
- ・子ども達の親で、リーダー的な人がいれば仲間で交流ができる。

(3)地域における子どもの居場所づくり

いま気になるところは、

- ・祖父母が子育てをサポートできるような、三世帯で住む家族は少なくなっている。
- ・親が歓迎しないために、子どもが遊びに集り出入りできる家庭が少なくなった。
- ・家庭の中にどこまで踏み込んで良いか、難しい問題だ。
- ・子ども食堂に、子どもを安易に行かせる親もいると聞く。
- ・下宿学生が減り、授業後はすぐに帰宅してしまう新幹線通学等の学生が増え、地域住民と関わる時間を持つ学生が少なくなったのが寂しい。
- ・以前、子ども会では、埼玉大学生に手伝ってもらい、秋ヶ瀬公園でスタンプラリーを行い、ゴール後は、野草を摘んで天ぷらにして食した。楽しいイベントだった。

① 学生にも地域のまちづくりに関心を持ってもらおう

【解決策やアイデア】

- 子ども（高齢者も）がいつでも集って、食べられる場を作っていきたい。
- 小学校の空き教室で、朝食をとれない児童に朝給食を行うのもいい。

【委員の意見】

- ・「無料塾ひこざ」では、こども食堂も行いたいと考えており、支援も集まりつつある。赤ちゃん連れの母親がお茶したりできるようにしたい。
- ・「無料塾ひこざ」の隣でボランティアが食料バンクを利用し、子ども達におにぎりを作って食べてもらっている。子ども（高齢者も）がいつでも集ってこられ、食べられる場を作っていきたい。
- ・「無料塾ひこざ」では、塾などに行けない子ども達に、埼玉大学生がボランティアで学習支援を行う素晴らしい活動だ。
- ・小学校で朝給食を行っているところもあると聞く。

平成 30 年度 第 2 回 桜区区民会議 議事要旨

日 時：平成 30 年 7 月 25 日（水）10 時 00 分～11 時 30 分

会 場：桜区役所 4 階 大会議室

出席者（敬称略）

[第 8 期桜区区民会議委員（五十音順）] 13 名

飯塚 洋子、五十嵐 一志、岩田 明子、大江 幸宣、小川 宅次、小澤 嘉昭、
川上 強、河野 宏、島崎 幸子、長沢 正子、原 綾、福島 謙吉、古屋 静香

[事務局]

桜区コミュニティ課
コンサルタント

[傍聴者] なし

欠席者（敬称略）

[第 8 期桜区区民会議委員（五十音順）] 7 名

市村 明広、榎本 文夫、岡島 玲子、小山 春佳、高澤 翼、千葉 健太、渡辺 常雄

議 事

1 開 会

2 議 事

(1) テーマの協議・意見交換

(2) その他

3 その他

4 閉 会

配付資料： 会議次第

資料 1 / 本日の会議の概要

資料 2 / 協議の進め方について

資料 3 / 前回の協議について

1 開 会

欠席者の確認、配付資料の確認を行った。

次に、事務局より、会議の公開、議事要旨の公開について説明があった。また傍聴希望者はいないことの報告があった。

2 議 事

(1) テーマの協議・意見交換

コンサルタントより、前回会議の内容確認、今年度の会議の進め方と協議の方法について説明があった。

その後、グループに分かれての意見交換を行った。

<グループ分け>

A 原副会長、大江委員、小澤委員、島崎委員、福島委員、古屋委員

B 川上会長、長沢副会長、飯塚委員、五十嵐委員、岩田委員、小川委員、河野委員

【高齢者の支援について協議・意見交換】

- 協議の内容は付箋に記入し、模造紙に貼った。(以下の通り)
- 各グループでの協議内容は、項目ごとに分類整理し、最後に各グループから発表して全員で共有した。

グループAの協議概要

シニアサポートセンターとの連携

- ・自分に何らかの問題が生じないと、シニアサポートセンターなどの施設に関心が向かないのが現実で、もっとPRすること大切だ。
- ・介護サービスだけでなく、介護予防などの取り組みもしていることが分かったが、介護施設というイメージが強く、実際に利用しにくい人が多いと思うので、工夫があるといい。
- ・「高齢者生活支援コーディネーター」が活動の鍵となると思うが、制度がスタートしたばかりなので、今後の活躍に期待したい。
- ・高齢者のコミュニティとシニアサポートセンターが積極的に連携を図るといいと思うので、地域の老人会などでPRしてはどうか。文字数の少ないわかりやすいチラシがあると効果的だと思う。
- ・民生委員とシニアサポートセンターの連携も大切だと思う。

親しみやすい老人会など的高齢者組織づくり

- ・「老人会」や「敬老会」などという名称に抵抗がある人、イメージがあまりよくないと感じる人、自分には関係ないと思っている元気な人もいる。イメージチェンジすることで、介護予防体操などに参加しやすくなり、高齢者以外にも様々な人が集まれる場になるのではないかな。
- ・「介護施設」や「老人会」などでは地域住民が参加できる様々な活動も展開しているが、「老人関連施設」は行きにくいので、自治会館などの方が気軽に行きやすいと感じている人もいる。
- ・シニア大学では、ディスコやサークル活動など、楽しい催しが開催されているので、もっと多くの人に参加して欲しい。
- ・「高齢者」を一律に年齢で規定してしまうのではなく、身体能力や精神面などで様々な人がいるのだから、きめ細かな対応や配慮もあるといい。

一緒に「食べる」ことから生まれるコミュニティづくり

- ・普段は自分一人だけで簡素な料理をしている人でも、子ども食堂などの場があれば頑張って食事を作ってくれると思う。
- ・「食事を作ってあげたい人」と「楽しく食事をしたい人」とをマッチングさせる仕組みがあるといい。
- ・子ども食堂は「貧困対策」というイメージがあるが、子どもも大人もいろいろな人が「食べる」「話す」ことができる気軽な場所にする事で、集まりやすいのではないかと感じる。高齢者も若い人や元気な人と一緒に居れば、気持ちも上向きになる。

今後ますます重要となる高齢者の移動手段

- ・気持ちは元気でも体が衰え、移動手段がないために遠くに行けない高齢者が増えてきている。
- ・将来的に自動運転技術が実現したら、高齢者の足となる車両を自治会館などに配備し地域内でシェアできるようになるといい。

退職後の男性の生活

- ・仕事を退職した男性の中には、生きがいを見失って家に引きこもりがちになってしまう人もいます。どうすれば外に連れ出せるだろうか。外に連れ出してくれる存在が必要。
- ・退職後に、夢だった田畑を借りて、農業を始める人もいます。
- ・男性は、自主的に何かに参加するなどの行動が難しくても、誰かに何かを頼まれると喜んで行動する人も多いのではないかと感じる。特に女性に助けを求められるのは元気も出るのではないかと感じる。女性たちの活動をサポートできる機会やしくみをコーディネートしてみるといい。シニアサポートセンターと連携をとってみるといい。
- ・共通の話題（仕事や趣味）の会話ができるコミュニティづくりができればいい。

グループBの協議概要

スマートフォン（携帯電話）などの活用で、高齢者を孤立させない仕組みづくり

- ・高齢者は、家族、社会、地域からの孤立を防ぐことが大切。そのひとつの手段として、スマートフォンが考えられる。親とLINEを通じてコミュニケーションを維持している人も多い。スタンプを送り合うだけのちょっとしたやりとりでもいい。
- ・スマートフォンやタブレットなどを多くの高齢者が利用できるようにするため、補助金を活用してはどうか。
- ・LINEなどで「桜区の公式なお知らせ」などを開設すれば、イベントや防災などの地域限定の情報などを発信することができる。
- ・高齢者の詐欺被害予防策として「発信者がわからない電話にはなるべく出ない」「知らない来訪者には簡単に対応しない」などの他に、スマートフォンなどのメッセージ交換（LINEのグループなど）が安全だと思う。
- ・70歳になる祖母が、電話で高齢者との話し相手になるボランティアをしているが、ストレス

発散にもなり、コミュニケーションをとることは大事だと思う。

外出が健康づくりの基礎

- ・シニアサポートセンターでの会議では、高齢者にいかに外出してもらうかを議論している。特に男性は、地域の集まり、イベント、サークルなどに参加する人が少ない。
- ・蕎麦打ちのイベントを行ったところ好評だったので、趣味の集まり、サークルが効果的だと思う。グラウンドゴルフなども、愛好者で盛り上がっている。
- ・「いきいき百歳体操」などの活動が広がっているが、広い会場が少ないので、公民館、老人ホームなどを活用している。暑い時期は特に、自宅から近い場所でないと参加しづらいので、小学校の空き教室などの空いている場所を何とか探している。
- ・自治会の盆踊りの練習は活発に行っている。コミュニティの一番身近な存在である自治会がリードしてくれると参加しやすくて良い。

シニアサポートセンターの活用

- ・シニアサポートセンターは、まだ認知度が低く、数が少ないので自宅から遠い人が多い。パンフレットを配布しても、なかなか読んでもらえない。
- ・シニアサポートセンターの「介護者サロン」では、介護をしている人同士が、悩みや疑問などについての情報交換や交流を図っているので活用し、リフレッシュしてほしい。
- ・成年後見人制度は、認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分でない方について、本人の権利を守る援助者を選ぶことで、本人を法律的に保護し、支援するための良い制度なので、皆さんに周知して活用してほしい。シニアサポートセンターが、財産管理の相談ができるよい相談先（団体）を紹介してくれるので、ぜひ利用してほしい。

(2) その他

- ・小澤委員より、さいたま桜高等学園「カフェ桜家」の資料配布があった。
- ・福島委員より、「埼玉大学連続市民講座」の資料配布と紹介があった。

3 その他

事務局より、「第49回桜区ロビーコンサート」及び「平成30年度さいたま市タウンミーティング」の案内があった。

また、第6回会議（平成31年2月22日）の開始時間を10時から15時30分に変更する旨の提案があり、了承された。

なお、次回会議を平成30年8月29日（水）10時から、桜区役所4階大会議室にて開催する旨の連絡があった。

4 閉 会

以 上